

安来高校植物図鑑（2020年6月）

和名:ヤナギハナガサ（柳花笠）

断面が四角形の茎が長く伸び、背が高くなります。その先に小さな花が密集して花笠のような形を作っています。右の写真は特に花笠に似ていませんか？全体的に剛毛があって触るとザラザラしています。葉が柳のように細いことからヤナギの字が付くそうです。観賞用として栽培されるものはサンジャクバーベナと呼びます。濃い紫色の花はとても目立ち、鮮やかです。安来高校には枝分かれしたものと、枝分かれしないものがありました。どちらも華やかに咲いていました。



和名:ドクダミ（葎草、毒溜）



花びらのように見える白い部分は実は葉の一部で、本物の花は真ん中の柱のようにになっている所です。鼻を突くような悪臭が有名ですが、加熱すると臭いが消えるそうです。昔から万能な薬草として認められており、10種類の効能があることから十薬とも呼ばれます。ドクダミ茶が有名ですね。毒々しいイメージがある花ですが、葉の形がハート形なので、ハートリーフというニックネームもあります。中庭にたくさん咲いています。

和名:トキワハゼ（常盤爆）

前号で紹介したムラサキサギゴケにそっくりな花です。もしよろしければ前号の写真と比較してみてください。一般的にムラサキサギゴケは「ほふく枝」があり、トキワハゼはそれがないことで見分けられると言われていますが、ほふく枝を知らないは無理ですね。私の見分け方は花の咲く時期です。ムラサキサギゴケは春だけ咲きますが、トキワハゼは冬を除いて1年中咲いています。常盤（永遠）に咲いているという意味です。今の時期に咲いていたらトキワハゼだと思われれます。



和名:ヒメジョオン（姫女苑）

やや背が高く、白い花をたくさん付けます。花の色が紫がかっているときもあります。江戸末期に観賞用に栽培されていたようですが、今ではどこでも見られるようになりました。ハルジオンという花とよく似ています。ハルジオンは茎が中空なのに対し、ヒメジョオンは茎の中に白い髓が詰まっていることで見分けられます。切ってみないと分かりませんが。ハルジオンは春だけ咲き、ヒメジョオンは初夏から秋まで咲くことでも見分けられます。ちなみに、松任谷由実さんの歌に「ハルジオン・ヒメジョオン」という曲があります。ご存じですか？



和名:キュウリグサ (胡瓜草)

花が小さくて直径2mm程度しかなく、ピントの合う写真が撮りにくい花です。葉を揉むとキュウリの匂いがすることからこの名前があります。私も何回か揉んでみたことがありますが、青臭さばかり気になって、キュウリだと感じたことはありません。みなさんもぜひ一度やってみてください。ワスレナグサの仲間、花の形が似ています。茎の先が丸まっていることが多いのですが、花が咲くにつれピンと伸びていきます。



和名:カタバミ (片喰)

ハート型の葉が3枚付きます。夜になると葉を閉じて眠り、葉の一方が食べられたかのように欠けて見えることから、この名前があります。葉の形のデザインは古くから家紋に使われてきました。葉にシュウ酸を含んでいるため、噛むと強い酸味を感じま

す。細長い実が熟すと縦に裂けて種子をはじき飛ばすそうです。隣に実があった

ので写真に撮りました。いつはじけるのでしょうか、楽しみです。



和名:ムラサキカタバミ (紫片喰)

江戸時代末期に渡来し、観賞用に栽培されました。暖かい土地を好む花で、日本では関東以西で広く野生化しています。左のカタバミとは違い、花粉ができず結実しません。地中に小さな鱗茎というものができ、増えていきます。

土を耕すとこの鱗茎が拡散して一気に広がっていきます。繁殖力の高い厄介者です。3年3組の窓から外を見ると咲いています。



和名:ツユクサ (露草)

朝に咲いて昼にはしぼんでしまう、朝露のように儂い、ということから名前があります。右の写真はお昼の少し前に撮りましたので、このあとしぼんだのでしょうか。深青色で2枚の花弁は大変美しいですが、実はその下に白い花弁がもう1枚あります。わかりにくいですね。ツユクサはおしべが3種類あることが有名です。花びらに一番近い(写真では一番奥にある)X字形のおしべと、中央にあるY字形のおしべは、黄色く、虫を引き付けるためのオトリです。前方に突き出た2本のおしべが本命で、虫に花粉を付けます。植物の生き方戦略を感じます。万葉集にはこの花を詠んだものが9首あるそうで、昔から日本で愛されてきた花であることを証明しています。



校地ではツバメが飛び回る季節になりました。校舎のあちこちに巣を作っています。安来高校でツバメと同じぐらいよく見かける鳥として、ハクセキレイがいます(右写真)。尾を上下に振りながら近づいてきてくれました。大変愛らしいです。そして先日からクロトンボが飛び始めました。

